

KAGAWA アンバサダーからのお便り～内藤洋さん～

こんにちは、香川の皆様はコロナに負けずにお元気でお過ごしでしょうか。

私は、カナダ在住の自然・動物カメラマンをしております内藤洋です。

カナダでのコロナ状況ですが、2020年の1月末にカナダで初のコロナ感染が確認されました。3月にはカナダでロックダウンが行われ、深刻な状況になり、私の住んでいるBC（ブリティッシュコロンビア）州でも地域により移動できない処置が施され、撮影に出かけられない時期がありました。

その後、コロナ禍は都市外へも広がりを見せました。2021年末にはオミクロンと言う新型コロナウイルスの変異株が流行しましたが、カナダ政府はその時点でカナダの渡航規制など公衆衛生対策を強化し、その結果としまして徐々に改善がみられるようになりました。2022年10月1日以降は感染者数の増加ピークから減少に転じ、危険な状況から脱しました。

その後、カナダの出入国が徐々に緩和され、2022年10月よりカナダの入国規制が全て解除となりました。

ご存知でしょうか。英国経済誌「エコノミスト」の調査部門による世界の住みやすい街ランキング2022年の10都市の内、カナダの3都市が選ばれています。第8位にトロント、第5位にバンクーバー、第4位にカルガリーが選ばれています。人口約3825万人、国土は日本の約26倍の面積を持つカナダは大自然を有する世界第2位の大きさを誇る国です。カナダは、日本とは深い関係を持つ国でもあり、日本が輸出よりも輸入量が勝る国で、資源大国の国とも言えます。



子供たちは、お母さんの背中を見ながら育ちます



今年生まれの小さな子供

西海岸を初めとしまして、日本文化の浸透が強く見られ、バンクーバーには移民している日本人が約1万人暮らしていると言われています。そして、学生や仕事で滞在している日本人が一万人ほど生活していると言われています。

2020、2021年にはコロナの影響により、ほとんど姿を見ることができなかった日本人観光客や学生の皆様も2022年後半には少しずつ街で見られるようになり、現在はあちこちで日本人を街で見かけることができました。

2020年以降、カナダでも日本から聞き及ぶニュースからも、コロナの影響で人々が疲弊している感じが感じられました。

何か、人を笑顔にできる写真を撮りたいとの思いから、カナダBC州からアメリカ・ワシントン州の山岳地帯に暮らすコロンビア・ジリスの写真を夏の間撮影してきました。2020年にはBC州内でも移動制限がかかり、シーズン後半まで現地に入ることができませんでした。今は自由に行き来できる状況にあります。



子沢山の肝っ玉母さん

雪深い冬の厳しい山岳地帯で暮らす彼たちは、5月湖の氷が割れる頃、平原の巣穴から姿を現し、6月後半に成長した子供達を巣穴から初めて地上の光の下に連れて出てきます。6月7月と地上で毎日草を食み、長い冬に向けて体力をつけます。8月初旬には山から冷たい風が吹き始め、地上の草も茶色味を帯び、8月10日頃には冬眠のために地中の巣穴での生活に入ります。彼たちは、地上での光を見て暮らす生活は、一年の内わずか100日程であり、来年の雪解けの頃までの250日以上の日々を地中の巣穴で過ごします。短い山の夏、子育てを行い、子供達の兄弟喧嘩を見守り、草を食む親子の様子を同じ高さの目線で写真を撮ってきました。微笑ましい、山岳地帯で暮らす彼たちの生活の日々を、いつの日にか写真で皆様に笑顔にできればと思っています。



内藤 洋 (ないとう ひろみ) さん

写真家。多度津町出身。カナダを拠点に自然や動物の写真撮影を行う。極地取材としては、南極へ2回、北極圏へ9回撮影を行っている。北アメリカ横断、南北アメリカ縦断の写真撮影の旅を行った経験もある。

◇ KAGAWA アンバサダーについて

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇ KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々にKAGAWAアンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されているKAGAWAアンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。